

令和5年度 江戸川区立〇〇小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	◎ 思いやりのある子 ○ よく考える子 ○ じょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	今日が楽しく明日が待ち遠しい学校 よく考える子 思いやりのある子 じょうぶな子 人間性豊かで、優れた授業力があり子供から尊敬される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>30周年記念式典をコンパクトな形で実施しながらも、子供が活躍し、思い出に残るような式典として成功させることができました。 <課題>学校行事の精選、職層に応じた教職員の指導力向上、教職員のライフワークバランスの充実		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・年間を通して、朝学習・朝読書を実施。 ・放課後補習教室を2～6年で実施。 ・各学年の実態に応じて家庭学習への保護者のかかわり方を提案する。	・朝学習の合計実施回数を70回以上確保。 ・放課後補習教室を5月より開始し、年間140回の実施を確保。 ・1学期中に家庭の実態を把握し、すべての学級で90%以上の家庭が家庭学習にかかわれるようになる。	A	B	・朝学習・放課後補習教室については、計画通りに実施できた。 ・高学年では自主学習の形で家庭学習に取り組みやすい家庭と協力して実践を重ねた。	A	・学校だよりや学年だよりを活用して家庭学習への参画を呼び掛けた。 ・学年の発達段階や実態に応じて、保護者会や学年だよりを活用して具体的なかかわり方について保護者に提示した。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書ボランティアと連携し、年間を通して図書室の環境整備を進めるとともに、定期的に読み聞かせ会を実施。 ・読書科の年間計画に基づいた実践。学校図書館を活用した探究的な学習の実践。	・図書ボランティアによる読み聞かせの様子をHPに掲載。 ・年間読書量昨年度比10%増。 ・4月中に転入職員への読書家に関する校内研修を実施し、各学年で探究的活動の計画を立てる。 ・全学年で図書館を活用した探究的な学習を10時間以上実施する。	B	B	・読み聞かせの様子をHPに掲載した。 ・読書ワークを活用して積極的に読書に取り組む児童の育成を図った。	B	・読書家・読書ワークを活用して年間読書量の変化について確認した。 ・年度末までに各学年で探究的な学習を確実に実施した。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	・中休みや昼休みの時間の外遊びを奨励。 ・冬季にランニングタイムとランニング記録会を実施。	・全児童の約8割が外遊びをするように、声をかけていく。 ・体力テストで東京都の平均を超える。	B	B	・外遊びができていた児童は7割ほどである。	B	・家庭で元気に遊んでいる子供たちが見えることでもうれし。ぜひ続けてほしい。 ・各学年の担任で教室担当と校庭担当を決め、外遊びの奨励をした。
	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・通常級と特別支援学級との交流学習を促進。 ・エンカレッジルームの担当のシフト化を進める。 ・臨海青海特別支援学校や鹿本学園との交流を図る。	・特別支援教育研修を年2回実施。 ・各時間ごとにエンカレッジ担当を全教員に割り振り、全教員がエンカレッジルームを利用する児童に関わる。 ・臨海青海特別支援学校との副籍交流は年に1度は実施する。 ・鹿本学園とは毎月文書交流する。コロナの状況に	A	A	・特別支援学級担任、特別支援教室教員により、学級・教室の説明や特別な支援を必要とする児童に関する理解推進研修を実施した。	A	・担任だけでは対応が困難なケースが見られたので、特別支援教育コーディネーターが中心となりエンカレッジシステムの組織づくり等を行い、大いに活用した。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・職員内で情報共有を密にし、組織的な対策を行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援委員会と生活指導部を中心とした不登校対策委員会の役割を明確にし、各委員会を中心とした組織的な不登校対策・教育相談の実施を行う。 ・hyper-QUの実施と活用。	・2回の生活指導夕食会において情報共有を行う。 ・4月中に校内支援委員会と不登校対策委員会の構成員を明確にし、対応・対策の流れについて全教職員で共有する。 ・1学期中にhyper-QUの実施とまとめを行い、各学級の状況について保護者とも共有するとともに、結果を生かして学級経営を行う。	A	B	・教員間の情報共有を密に行うことができていた。	B	・hyper-QUのまとめ・分析をおこない、学級経営の見直しに活用した。
	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・ホームページを活用した日常的な情報発信 ・年4回の土曜授業実施	・ホームページの「学校日記」に授業等の様子を写真を毎日掲示する。 ・「学校日記」の写真を活用した家族での会話を励行する。 ・土曜授業において、家庭での話題となるような授業を積極的に実施し、家庭において学校に関する会話が日常的に行われる足掛かりとする。	A	A	・学校日記への写真掲載は継続して実施できた。 ・学校だより等をtetoriでの配信にし、写真を多く活用して様子が伝わりやすい工夫した。	A	・学校評価アンケート等を活用して、家庭での活用の様子を把握する。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・新しい学校行事の在り方について、実施可能な行事を精選し、PTAや地域と連携しながら、方向性を探る。	・PTAや地域と連携し、10月にファミリーフェスティバルを実施する。 ・保護者の現状に合わせたPTA組織にあり方について本部役員と一緒に考え、保護者が参画しやすいPTAへの改革を支援する。	A	A	・ファミリーフェスティバルの準備について、保護者と協力して実施できた。昨年度の反省を生かして保護者と教員が協力しやすい対応ができた。 ・PTAのあり方について話し合い、より多くの保護者が少ない負担で参加できるような運営の在り方を話し合った。新体制の組織で自然を迎えることとなった。	A	・新年度、運営の様子を見ながらより良い組織へ改革できるよう話し合いを続ける。
	＜働き方改革と学校組織力の向上＞ ・教職員のワークライフバランス充実 ・効率的な学校運営による指導力向上のための時間確保	・月1回の一斉退勤日の設定 ・学校運営組織の改善及び会議の精選	・一斉退勤日を見据えた校務遂行を励行し、定時退勤を日常化することで、教職員がプライベートの時間を充実させられるようにする。 ・教職員の校務の負担を軽減できるような学校運営組織について組織の改編も見据えて運営する。 ・年間会議予定をもとに内容を精選し、実施回数の削減を図る。	A	A	・定時退勤日にはほぼすべての職員が17時半までに退勤できた。 ・教務主幹を中心に校務改善につながるような学校運営組織の改革を行った。 ・会議内容をもとに会議計画の改善を行った。	A	・新年度は新体制での学校運営となる。各分掌組織の同行を共有し、より良い組織運営に努める。